

学会消息

◇日本都市社会学会

昭和60年4月4日から6日にかけて2泊3日間、関西学院千刈セミナーハウスで日本都市社会学会の第3回大会が開催された。

関西学院大学が開催校であったため、倉田和四生教授、山本剛郎教授の二人が会場の運営に当たった。本学会としては初めて合宿形式の大会となったが、第1日目の4月4日の夕食後、ミニ・シンポジウムが6時から8時まで行われた。

第2日目の5日は午前と午後に自由報告がなされ、昼食時には3組のラウンド・テーブルに分かれ、食事をとりながら都市社会学関係の著書のうち3冊をとりあげ合評会を開いた。また6時から懇親会が開かれ、久山院長が歓迎のあいさつをされた。

第3日は朝食後、シンポジウム「都市化社会と地域集団」が開かれ、倉田和四生教授が司会をつとめた。

◇日本新聞学会

1985年度総会並びに春季研究発表会が去る4月27、28日両日筑波大学にて行われた。個人研究発表のほかパネル討論が「新聞の現在：課題と対応」 a)報道と人権、b)現代状況とジャーナリズム、のテーマのもとに研究報告並びに討論された。本学部からは、津金沢聡広教授、加藤春恵子教授が出席し、津金沢教授はパネル討論の(b)現代状況とジャーナリズムの司会を担当した。

なお、総会で、今年度および来年度にわたる学会理事選挙結果が承認され、新理事のひとりに津金沢教授が選出され、研究企画委員会担当を委任された。加藤教授は研究企画委員会委員に選出された。

◇関西社会学会

第36回関西社会学会は昭和60年6月1日(土)、2日(日)、金沢大学で開催された。この学会で鳥越皓之教授は第一日のシンポジウム「社会学を

考える：日常経験と理論」の第2報告で「日常生活とフォークロアの方法」に関する報告を行った。また第二日目の理論〔I〕で中野秀一郎教授、共同報告〔II〕で山本剛郎教授がそれぞれ司会にあたり、理論〔II〕で高坂健次助教授は「相対的不満論再考」について、社会心理の部会で博士過程後期課程の松田健氏は「音楽の大衆化をめぐる理論的展開」についてそれぞれ研究報告を行った。

第一日目午後行われたシンポジウムでは、200名に近い会員、臨時会員が参加し、昭和59年度より2年間にわたって継続されてきた「社会学を考える」シリーズは、来年度第37回大会で、その最終回を迎えることになった。

◇日本基督教社会福祉学会

本学会第26回大会は6月7日・8日、ルーテル市ヶ谷センターで開催された。「生と死」というテーマのもと、クリスチャン・ソーシャル・ワーカーの行動指針を求めて、キリスト教社会福祉実践の視点と基盤および現場での課題について、報告・討議がなされた。本学部からは嶋田津矢子名誉教授、高田真治教授が参加した。

◇日本グループ・ダイナミックス学会

日本グループ・ダイナミックス学会第33回大会は去る7月23・24両日にわたって早稲田大学で開催された。本学関係者の研究発表は次の通りである。(発表順)

○フラストレーション事態における集団成員の反応 佐々木薫(教授)

○コミュニケーション・ネットワークの構造化に関する研究(1) 浅井輝昭(博士課程前期課程)、佐々木薫(教授)

○公正原理採択の規定因としての状況特性 斉藤友里子(博士課程後期課程)、佐々木薫(教授)

○討議集団における majority-minority 関係の研究 近藤隆(博士課程前期課程)、佐々木薫(教授)

○社会的蟻地獄の実験的研究(第1報) 海野道郎[東北大]、岩本健良[北大]、上田博子(博士課程前期課程)

◇日本心理学会

日本心理学会第49回大会は、1985年7月25日(木)から27日(土)まで、日本大学において開催された。本学からは田中國夫教授が、シンポジウム「社会心理学に何を求めるか—社会心理学内部からの自己点検—」において、「社会心理学者の『社会性』」というテーマで話題提供者となられ、活発な議論が展開された。また、井上和子氏が、「ファッションの普及過程における E. M. Rogers の採用者カテゴリの検討—Fishbein モデルを用いて—」を、井上徹氏が、「対人魅力における Investment モデルの検討」をそれぞれ発表し、田中國夫教授、広沢俊宗氏(大学院)の共同研究で、「孤独の原因、感情反応、および対処行動に関する研究(Ⅰ)」を広沢俊宗氏が発表した。

◇日本社会福祉学会

日本社会福祉学会第33回大会は9月22日・23日、大阪府立大学で開催された。大会テーマとして「社会福祉における国・地方・民間の役割」が設定され、「社会福祉の制度的保障と民間活動」および「社会福祉における対人サービスの保障」の2つのシンポジウムがもたれた。自由研究報告では、浅野仁助教授が「老人家庭奉仕員派遣事業の今日的課題」、小笠原慶彰研究員が「戦後のボランティア関連文献の動向と課題」、(いずれも共同研究)について報告した。

なお22日には、学会関西部会事務局である社会学部が、英国 LSE 教授ロバート・ピンカー氏による講演会を開いた。テーマは「英国社会福祉における公的ならびに民間セクターの役割」であり、多数の出席を得た。

◇日本教育心理学会

日本教育心理学会第27回総会は去る9月26・27・28日の3日間にわたって東京虎ノ門の国立教育会館において開催された。本学部関係者の研究発表は次の通り(発表順)。

○“ネアカ”と“ネクラ”の帰属の相違：Winer のモデルから 岩渕千明〔帝国女子短大〕、田中國夫(教授)

○孤独の原因、感情反応、および対処行動に関する研究(Ⅱ) 広沢俊宗(博士課程後期課程)、田中國夫(教授)

○偏見の形成過程に関する実験的研究 佐々木薫(教授)

○不公正に対する反応の実験的研究 齊藤友里子(博士課程後期課程)、佐々木薫(教授)

執 筆 者 紹 介 (掲載順)

大 道 安 次 郎	名 譽 会 員	辻 伊 都 子	社会学部大学院博士課程前期課程
村 川 満	社会学部教授	田 中 國 夫	社会学部教授
倉 田 和 四 生	社会学部教授	井 上 和 子	社会学部大学院研究員
山 路 勝 彦	社会学部教授	柳 原 佳 子	社会学部大学院研究員
鳥 越 皓 之	社会学部教授	広 沢 俊 宗	社会学部大学院博士課程後期課程
真 鍋 一 史	社会学部教授		

社 会 学 部 研 究 会 々 員

会 長	武 田 建				
評 議 員	津 金 沢 聡 広	杉 山 貞 夫	牧 正 英		
	中 野 秀 一 郎	村 川 満	高 田 真 治		
会 計 監 査	田 中 國 夫	山 本 剛 郎			
書 記	小 倉 克 秋				
名 誉 会 員	青 山 秀 夫	大 道 安 次 郎	藤 原 恵		
	本 出 祐 之	小 関 藤 一 郎	蔵 内 数 太		
	岡 村 重 夫	嶋 田 津 矢 子	清 木 盛 光		
	栃 原 知 雄				(A B C 順)
普 通 会 員	杉 原 方	西 尾 朗	定 平 元 四 良		
	萬 成 博	領 家 穰	倉 田 和 四 生		
	半 田 一 吉	遠 藤 惣 一	佐々木 薫		
	森 川 甫	張 光 夫	中 山 慶 一 郎		
	J.A. ジ ョ イ ス	宮 田 満 雄	船 本 弘 毅		
	春 名 純 人	紺 田 千 登 史	西 山 美 瑳 子		
	安 田 三 郎	真 鍋 一 史	加 藤 春 恵 子		
	山 路 勝 彦	鳥 越 皓 之	荒 川 義 子		
	安 藤 文 四 郎	芝 田 正 夫	浅 野 仁		
	高 坂 健 次	対 馬 路 人	芝 野 松 次 郎		

関西学院大学社会学部研究会会則

- 第 1 条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。
- 第 2 条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の交流を計ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行う。
- 1 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
 - 2 研究会および講演会の開催。
 - 3 研究叢書の刊行。
 - 4 その他本会の必要と認める事業。
- 第 4 条 本会の会員は次の 3 種とする。
- 1 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
 - 2 普通会員 本会社会学部専任の教授、助教授、講師および助手。
 - 3 賛助会員 以上の外申込のあったもの。
- 第 5 条 普通会員は年額 19,200 円、賛助会員は年額 10,000 円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。
- 第 6 条 本会員および本会社会学部大学院生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は昭和 56 年度入学生より年額 1,600 円とする。
- 第 7 条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長（1 名）は、社会学部長をもってあてる。
 - 2 評議員（6 名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
 - 3 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
 - 4 会計監査（2 名）は、普通会員の中から互選する。
 - 5 書記は、社会学部事務長に委嘱する。
- 第 8 条 本会役員の任期は 2 年とする。重任を妨げない。
- 第 9 条 本会会計年度は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第 10 条 総会は年 1 回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。
- 第 11 条 本会は事務所を本会社会学部におく。
- 第 12 条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

＜編集後記＞

51号少々おくれましたが発刊できる運びとなりました。毎号の編集事務にあたる海野雅経事務主任大変ご苦勞さまで。

さて、すでに会員の皆様にはお氣付きのことと思いますが、ここ数年間、大道安次郎名誉教授の論文が毎号に発表されています。先生は昭和47年4月、学院を定年退職され、現在82歳のご高齢ですがまだまだ矍鑠^{かくしやく}としておられます。先生の研究は近年、老人社会学^{うんのう}の研究から病院社会学、周辺都市問題への研究と発展し、その内容も蘊奥^{うんのう}をきわめ、これらの点でもわれわれに強い刺激を与えられます。先生の末ながいご健康とますますのご活躍をお祈りし、最後に会員の皆様方からの多くのご投稿をお願いします。(牧)

60年12月5日 印刷

60年12月10日 発行

編集発行人 武 田 建

発 行 所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798) (53)6111(代表)
(内線) 4212

印 刷 所 尼崎印刷株式会社

〒660 尼崎市北大物町25

電 話 (06)481—0707(代)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 5'

December 1985

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
